

2018年(平成30年)5月21日(月)掲載

くらし



ジュニア編 ③



しらはた・つよし 74
 年北海道生まれ。秋田大
 医学部卒、同大大学院修
 了。10年4月から現職。

野球やサッカー、その他、どんなスポーツ競技でも、転倒して手をつくというシーンは少なからずあります。その際、力のかかり方によっては手首を骨折してしまう場合があります。

手関節のけが

痛むなら早期受診を

手首のけがで最も多いのは橈骨遠位端骨折です。手首が腫れて大きく変形する時もあるれば、外見上はそれほど目立たない場合もあります。診断時の判断材料としては、エックス線撮影はもちろんです。どの部位に圧痛があるのが大事になってきます。

骨折部のずれが大きければ、ギプスなどで固定します。ずれを元に戻しても不安定で維持できないようであれば、手術を行うこともあります。手術は主に細いワイヤを骨に挿し込んで固定したり、プレートとねじで固

定したりします。

成長期の子供の骨は大人の骨に比べて、骨折してもつきが早いのが特徴です。半面、けがをした際に成長軟骨である骨端線が傷つき、まれに成長障害(手首が成長に伴い曲がってくる)を生じることがあります。ただの骨折と軽く考えず、経過

ですが、橈骨骨折より痛みが軽いせいか、患者さんが「ただの打撲」と思い込み、けがをして1か月もたつてから受診されることしばしばあります。

この骨折は、受傷早期に手術を要することも多いため、痛みが1週間以上続くようであれば早めに医療機関を受診してください。

ほかに手首のけがにはさまざまなものがあります。まずは放置せずに医療機関を受診すること、そして骨折などが見つかったら、時間をかけてしっかりと治療を行うことが大切です。競技への復帰を急ぐあまり、不十分な治療にならないよう、周囲の理解も必要だと感じています。



橈骨遠位端骨折のエックス線画像。骨のずれが大きければ手術が必要となる

を慎重に観察する必要があります。もう一つ、手首周辺の骨折で頻度が高いのは舟状骨骨折です。これは手のひらの中にある手根骨の骨折です。やはり転んで手をついたときに受傷しやすいので

白幡毅士・由利組合
 総合病院整形外科
 第1、3月曜日に掲載